

すくすく

たけのこキッズ

第 29 号



川崎こどもクリニック

〒597-0102 貝塚市木積656-7

電話：072-421-2033

http://www.kawasaki-kc.jp

平成19年 9月18日発行

少しずつかぜが増加

少しずつ少しずつかぜが増えていきます。日中と夜の気温差が大きくなってきたことや、運動会の練習疲れなどが原因のようです。十分な睡眠をとらせて下さい。

ポリオワクチンは先？後？

貝塚市では10月1日より秋のポリオワクチンのシーズンが始まります。ある日に集中すると大変だということから貝塚市では通知ハガキに「目安となる日付」が入っていますが、他のワクチンの日程と調整しにくい時には別の日でも大丈夫です。現在の日本での流行状況からは麻しん風しん混合（MR）ワクチンや三種混合ワクチンの方が大事です。特に今回は2回目のポリオだという方でMRワクチンや三種混合ワクチンがまだの方は、そちらを優先した日程を組む必要があります。場合によってはポリオを来シーズンに回すこともあります。接種日程を組む上で困ったことがあれば、母子手帳と接種案内ハガキを用意して院長にご相談ください。

9月9日は救急の日

市民向け救命救急蘇生法講習会では、覚えるべき蘇生の手段と順序として、A（気道確保）、B（人工呼吸）、C（心臓マッサージ）、D（除細動）と英語をもとにした教え方をしています。しかし、日本人ならやはり日本語の方がわかりやすいのではないのでしょうか。

あ； 顎あげて（気道確保）

い； 息吹き込んで（人工呼吸）

う； 動かそう（心臓マッサージ）

え； AEDと（除細動）

お； 応援も（介助者の確保、救急隊への通報など）

また、すべての人が心肺蘇生ができることが理想ですが、できない人は救急隊や応援を呼んだり、AEDを持ってきたりと分業することも考えられます。逆に言えば、実際に心肺蘇生ができない人こそAEDのありがたさを知っておいて欲しいです。普段から「あっ、こんなところにAEDがおいてあるんだ」というように関心を持っていたいで、必要な時に取りに走れる様にさせてはいかげんでしょうか。

ちなみに、院長の住む地区である馬場の地車には2年前からAEDを積んでいます。祭りの際に

AEDが必要となるのであれば地車周辺でしょうから、普段はクリニックにおいてあるものを地車に積んでしまったということです。万が一必要になったら、馬場の地車の後柵子の脇に積んであるAEDを思い出して下さい。



乳児後期健診

乳児健診は発育発達の遅れを早期に発見することが第一の目的です。では、毎月さらには毎日のように健診すべきなのでしょう。いいえ、それはほとんど意味がありません。赤ちゃんの発達は一定の速度ではありません。ある時期には急にいろいろなことが出来る様になるかと思えば、しばらく発達が止まったかに見える時期があったりします。また発達には個人差もあります。しかしながら



運動や精神発達にはキーポイントとなる月齢があります。それは個人差が小さくなる時期でもありますので、発達の遅れがあった場合には容易に拾い出してもらうことができます。このキーポイントとなる月齢は4か月

であり、10か月であり、1歳半、3歳なのです。1歳のお誕生日といえ非常にわかりやすい区切ですが、発達を評価するにはあまり適しません。乳児後期健診は9か月になった日から1歳のお誕生日の前日までに行うこととなりますが、上に書いた理由により可能であれば10か月前後で受けると良いでしょう。

さて、最初に書きましたように、乳児健診の本来の目的は発育発達の遅れを早期発見することでした。しかし、時代は変化し、別の大きな目的がクローズアップしてきました。近年の少子化、核家族化などから起こってきた母親の育児不安の増大に対して、乳幼児の健康増進のための身近なアドバイザーを確保するという目的です。言い換えればかかりつけ医の確保です。このため、市町村がキーポイントとなる健診を全て集団で行うのではなく、生後10か月頃行うべき乳児後期健診を一般医療機関に委託しています。そして実際に健診の時間の中で、病気の発見に努めるだけでなく、予防接種についてアドバイスしたり、家庭内事故防止のための心がけやチャイルドシート着用の推進についてお話するといったことに取り組んでいる小児科医も増えています。うちの子供はちゃんと育てているから健診には行かないというのではなく、乳児後期健診の機会を利用して、何でも相談できる小児科医と仲良くなって下さい。



小児救急広域センター出務日

10月には院長の出務日はありません

休診のお知らせ

10月6日（土） 地元祭礼のため